

# BIC

Business Information Center

元気な企業を応援する  
ビジネスマガジン  
BICKあきた

12

2019  
vol.461

# Akita

世界のキレイを秋田から  
秋田発のベンチャー企業

経営探訪 ◎ インターフェイス株式会社



 Interface

創業・起業支援  
特集号

## 04 センター活用事例

オーダーメイドで確かな効果 人を育てる研修専門会社  
株式会社ビィ・ウイズ

離れた家族の絆つなぐ ふるさとの総合窓口  
NPO法人eナビステーションりあん

## 06 経営サプリメント

起業はカンタン? それとも大変?  
起業にまつわるいろんな話

## 08 主催事業報告

あきた起業家交流フェスタ2019  
起業家展示会／あきたビジネスプランコンテスト

## 10 おしらせ

先輩起業家を表彰しました  
創業支援室(秋田県庁第二庁舎3階)の入居者を募集しています!  
移住支援金対象法人募集中!  
ファンド事業による助成対象事業を募集します!

世界のキレイを秋田から  
秋田発のベンチャー企業



2006年、化粧品や日用品などの安全性や有用性を研究・調査する臨床試験受託機関として創業。  
秋田県庁第二庁舎内の創業支援室からスタートし、現在は秋田駅前のフォンテAKITA7Fにオフィスを構える。  
野澤一美代表は経営者としてのみならず、女性の働き方に関する講演など、多方面で活躍している。

## 創業の地に“秋田”を選択

全国的な知名度を誇る「秋田美人」。このキーワードを付加価値と捉え、秋田発のベンチャー企業として活躍する女性がいる。化粧品や日用品などの臨床試験を専門とするインターフェイス株式会社の野澤一美代表だ。

「化粧品や日用品などが市場に出回る際、製品に記載されている効能や効果、安全性に偽りがないかを科学的に検証し、得られたデータをメーカーへフィードバックしています」。

今でこそ当たり前に行われている臨床試験だが、当時の日本ではほとんど馴染みがない分野であった。製品の品質保証について“日本は欧米よりも数十年遅れていた”と語る野澤代表がキャリアを積んだのは語学留学先の米国だった。「はじめは大学に通いながらのアルバイトからでした」と笑う野澤代表だが、クライアントに寄り添う丁寧な接客が高く評価され、技術とノウハウを吸収しながらアジア担当部長まで勤め上げた。その後、10年以上のキャリアを活かして独立した。



“チャンスを逃さず独立、創業”

時を同じくして、PL法(製造物責任法)、薬事法改正に伴う化粧品の全成分表示等の義務付けにより日本での需要が高まっており、日本のメーカーから「日本で同様の試験を行ってほしい」と要望があった。悩んだもののこんなチャンスはまたないと、一念発起し、野澤代表は単身日本での起業を決意する。

「どこで起業しようかと考えていたとき、秋田出身の友人に“ベンチャー支援が充実している秋田でやるべき”と言われたんです。さっそく関係機関に出向き相談したところ、興味深い事業であるとしてご支援いただくことになり、秋田での起業に至りました」。

## 秋田が持つ可能性と付加価値

野澤代表は埼玉県出身。友人がいる以外に秋田には縁がなかったが、この地での起業には、確固たる勝算があった。

「米国人の夫とも“秋田の人の肌は他の人とは違う”と話していました。実際、秋田の女性たちの肌の白さやきめの細やかさは科学的にも証明されており、化粧品の被験者に適した肌をもつ候補者がとても多いんです。広く認知されている“秋田美人”というキーワードも大きな武器になると思いました」。

“秋田の肌”には、業界も以前から注目しており、野澤代表に信頼を寄せるメーカーからの依頼が相次いだ。

当初は、あまり聞きなれない業態での一般モニター集めに苦労したものの、県庁内にオフィスがある信頼性や女性創業者として注目されたことも相まって事業は順調に推移。2016年には秋田駅前のフォンテAKITAに移転し、現在の登録モニターは1万人を超えていている。

14年の歳月を経て大きな成長を遂げたインターフェイスだ



2 3

が、野澤代表の優れた経営手腕が現れているのは売上だけではない。人材の雇用と育成、そして定着に向けた動きにも活発に取り組んでいる。特に同社のような県内にあまりない臨床試験専門の会社は、どうしても首都圏と比較すると経験者を採用しにくいという実情がある。

そのため、同社の業務内容を学生のうちから知ってもらおうと、県内大学生向けにジョブシャドウイング(半日から1日、従業員に密着し、職場での仕事ぶりを観察する体験)を実施し、近年は毎年2~3人の新卒雇用を実現している。また、業務の効率化を図るべく、シフト管理ソフトの導入やフレックス制、子連れ勤務、在宅勤務などを取り入れた多用な働き方を推進しており、野澤代表が自らの社員の悩みを聞くこともある。

「人材育成は課題のひとつです。私自身が楽しく仕事をしているため、目指しているのは社員にとっても楽しいと思える職場環境づくり。将来的にはもっと雇用の門戸を広げるため、小さな子供がいる方でも安心して働けるよう、社内に保育所をつくりたいと思っています」。



4

## 美しい世界を創るドリームメーカーに

より良い製品を世に出したいと望むクライアントの想いに全力で応え続けている野澤代表の姿勢と、常に世界を見据えている視線は創業当時から変わらない。多くの文化に触れることで、世界から見た秋田の地域ポテンシャルの可能性を見出した野澤代表自身の経験から、社員にも世界を意識し、挑戦しながら働くことの重要さを伝えている。

「ライバルは隣に座る同期ではなく、世界で働く同年代。これから起業を目指す人にも共通して言えることですが、常に色々なことに興味を持つことが大切です。そして、趣味でも仕事でも今やっていることにまずは全力で取り組むこと。自分が経験したことで無駄になることはひとつもありません」。

秋田発のベンチャー企業として、先陣を切って走り続けるインターフェイス。掲げる理念は“ドリームメーカーとしてひとりの夢がたくさんの人々の夢につながる美しい世界を創る”こと。小さな部屋から始まった大きな挑戦は、まだ見ぬ新しい“美しさ”を求めて、世界を舞台にどこまでも広がっていく。

1 丁寧なカウンセリングで集めたデータは高い評価を得ている。

2 社員の平均年齢は30代。オープンな社風が魅力のひとつ。

3・4 白を基調とした清潔で美しい室内。



インターフェイス株式会社

〒010-0001  
秋田県秋田市中通二丁目8-1  
フォンテAKITA 7F  
TEL. 018-827-7155  
FAX. 018-827-7188  
<https://clinical-testing.jp/>

設立／2006年  
●資本金／300万円  
●従業員数／25名  
●営業品目／化粧品・医薬部外品・日用品・健康補助食品・サプリメント等の安全性・有用性の臨床試験

# オーダーメイドで確かな効果 人を育てる研修専門会社

人材育成はお任せ!!



## 株式会社ビィ・ウィズ

〒010-8572 秋田県秋田市山王三丁目1-1 秋田県庁第二庁舎3階 創業支援室  
TEL&FAX. 018-838-7010 <https://be-with.co.jp/>

「人材を活かす  
ための研修です」  
と中安さん



### 人材育成は重要な経営戦略



社会状況の変化に合わせ、  
求められる働き方や人材像も  
また日々変化しており、人材  
育成は企業の重要な経営戦  
略のひとつとなっている。そ  
んな中、柔軟で効果的な人材

育成研修を行う会社として定評があるのが、県庁第二庁舎内の創業支援室に入居している株式会社ビィ・ウィズだ。大手コールセンターでの社内研修指導や人材派遣会社での研修事業部設立に携わった経験を持つ中安留美代表を中心となり、クライアントのニーズと社員の多様性に合わせたオーダーメイドの研修を行っている。

「他の研修会社では、同様のカリキュラムを使い回したり、作成者と講師が異なったりすることが多いと思いますが、当社ではクライアントが抱える課題に対し、確実な成果を出すため、毎回テキストを一から作成し、研修に臨んでいます」。

### 秋田発の企業として、秋田で出来ることを

中安代表の研修に妥協点はない。“研修は理解してこそ”をモットーに、受講者本人が納得できるよう、時には個人面談を交えながら、徹底した課題解決を心掛ける。また、一方的に話を聞かせるのではなく、ロールプレイング方式による全員参加型の研修により、他者から学び、自身で考えることの大切さも説く。その姿勢は、この度開催された「あきたビジネスプランコンテスト」におけるプレゼン指導にも活かされており、出場者たちの熱弁に表されている。

「県庁内にある創業支援室に入ったことで、営業先からの信用にもつながり、助かっています。特に今力を入れているのが、若年層の離職防止を含めた、組織向けの様々な研修です。秋田に根ざす研修専門企業として、秋田ならではの課題をもっともっと解決していきたいですね」。



#### 活用事例

#### 創業支援室の提供

創業や新分野進出を目指す企業に事務スペース(創業支援室)を貸し出し、入居者に対する相談対応や情報提供を行います。

お問い合わせ 総合企画部 総合相談課 TEL.018-860-5610

# 離れた家族の絆つなぐ ふるさとの総合窓口

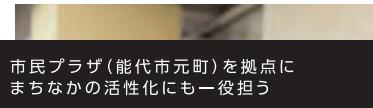
／ 昨年のファイナリスト！！



## NPO法人eナビステーションりあん

〒016-0806 秋田県能代市清助町2-11 TEL. 0185-74-7751 FAX. 0185-74-7750  
<https://npo-lien.org/>

「何でも相談  
してください」  
と越後さん



市民プラザ（能代市元町）を拠点に  
まちなかの活性化にも一役担う



### 地域のワンストップ型相談窓口



「遠く離れて暮らす家族間の安心と地域への貢献を提供する社会貢献型のプラットフォームが“りあん”の提案するビジネスモデルです。」

昨年開催された「あきたビジネスプランコンテスト」最終審査会において、堂々としたプレゼンを繰り広げたNPO法人eナビステーションりあんの越後康一代表。フランス語で「絆」を意味する“りあん”的な通り、能代市、藤里町、三種町、八峰町の4市町を対象に、地元に住む高齢の親と遠く離れて暮らす子どもや孫との絆を結ぶべく、双方から寄せられるあらゆる相談事に応じている。

「買い物や草刈りなどの日常生活の支援から空き家の管理や移住・定住の応援まで、普通であれば個別に相談しなければならないことも、りあんに行けば全てが解決する。そんなワンストップ型の窓口を目指しています。」

### 人々が集まり、笑顔を生むまちづくり

少子高齢化に伴い、衰退していく町並み。地域に活気を取り戻したいと思いながらも、まだぼんやりとしていたふるさとを救う未来図は、ビジネスプランコンテストへの参加を機に、より具体的な構想へと変わっていった。越後代表はコンテスト終了後すぐにりあんを設立し、今年7月からはJR能代駅前の市民プラザを拠点に更なる活動に力を入れている。

「まずは地域の方々を知り、信頼を得ていくことを大切にし、色々な立場の方の話に耳を傾けながら、まち全体の活性化に繋げていきたいですね。」

活動を通して出会った高校生がまちづくりのヒントをくれることもあると越後代表が語るように、市民プラザには連日、老若男女問わず様々な人たちが集う。ふるさとを起点に家族の絆を深めるりあんの活動は、地域の輪に乗せて今、確かに広まっている。



#### 活用事例

#### あきた起業家交流フェスタの開催

起業意識を醸成、起業家の発掘、新しい事業展開を促進するための「ビジネスプランコンテスト」や「起業家同士の交流会」等を開催します。

お問い合わせ 総合企画部 総合相談課 TEL.018-860-5610

# 経営サプリメント



『起業はカンタン? それとも大変? 起業にまつわるいろんな話』

## 起業する目的は何かを考えよう

第二次ベビーブーム世代である我々は、子どもの頃の夢に「社長になりたい」「偉くなりたい」という言葉が多かった気がします。今は、株式会社でも合同会社でも誰でも簡単に社長になれる時代(いわゆる起業)で、国も起業率を欧米並みに上げたいと様々な施策を講じています。

しかしながら、現実には起業してから10年後まで残っている事業者(正確には起業当初の事業で存続している)は1割程度といわれます。変化のスピードが速いのに加え、人口減少時代に突入したので、マーケティングが参考にはならず、極めて難しい経営を強いられている事業者が多いのではないでしょうか。

実は僕もそんな一人です。僕の話をしましょう。起業のきっかけは、実家の家業を継ぐために入社した会社(米屋)で社長である父と喧嘩し、衝動的に事業者登録をしてしまいました。

「実家の米屋ではネット通販の分野を担っていたので、その受け皿になる会社を早く作ってサービスを停滞しないようにしたい」と考えたことはただそれだけでした。

そこからいろいろな方に相談してわかってきたことがたくさんあります。

### 起業の前に必要なこと〈一部ですが大事〉

- 自己資金が必要
- 事業計画が必要
- ネットワークが必要
- 起業(登記)のタイミングとスケジュールが必要
- 家族の支援が必要
- 社会保険、雇用、労務、経理の知識もしくはパートナーが必要 などなど



何のために自分は会社を興し何を成し遂げるのか、ミッション、ビジョンそしてバリューを考えなければならないのに、僕は何も考えずに出了しました。なので、いきなりいくつものミスをやらかします。

僕が起業する際には場所さえありませんでしたので、とりあえず自宅で開業しました。法人にしたくても時間が掛かるので、まずは個人事業主としての開業届を出してスタート。今までのお客様にサービスの品質を落とさないよう心掛けつつ、会社として少しづつ整備してはいったのですが…。

ここまで無計画だとどうなるか想像できますよね。数か月で手持ちのお金が底を尽き、銀行から運転資金を借りることに…でも借金のし方もわかりません。

そんなときに相談に乗ってくれる人がいたらしいなと思ったのが発端で、それからは起業したいと思う人たちのサポート(インキュベーションマネジャーのような業務)をしたいと思って活動してきました。



(公財)あきた企業活性化センター  
秋田県よろず支援拠点 コーディネーター

## 本田 正博

1997年 JR系通信会社 (株)トランスネット インターネット事業部  
2001年 富士通㈱ @nity Web プロデューサー  
2003年 実家である米屋(本田商店)のネットショップ店長(㈱本田商店)  
2014年 独立・起業(合同会社あきたこまちネット 代表社員)  
2015~2016年 職業訓練校講師(Webクリエイター養成科、OA基礎科)  
2016年 社会福祉法人 山王平成会(保育園)事務長を兼務  
2018年 秋田市イクボス企業同盟 事務局長を兼務  
NPO法人ファザーリング・ジャパン東北 事務局長を兼務  
2019年 秋田県よろず支援拠点 コーディネーターを兼務



◎自宅内に急遽作った仕事場。今でいう在宅ワークができるようなスペースですが回りには洗濯物がたくさん。



それから早5年、絶え曲折を経て、今でもお米を中心としたネット販売(EC)をメインに、企業向けの研修やWebサイトの制作・サポートなど、私と社員2名で苦しみながらも継続しています。

そして今年からは、私自身の起業の経験を踏まえ「秋田県よろず支援拠点」のコーディネーターとしてサポートに携わっています。それはひとえに沢山の方々にサポートして頂いたお蔭にほかなりません。

## どんなことでも相談しよう

今は秋田でも起業家向けのサービスがたくさんあります。シェアオフィス(公も民も複数あり)もあればコワーキングスペースもできました。

また「あきた企業活性化センター」のようなワンストップで対応する機関もあり、金融機関等との連携もとれているので資金、補助金、ネットワーク作りまであらゆることを気軽に相談できます。

起業前、起業直後、起業後うまくいかないなと思った時、起業後3年、5年経った時など節目節目でこのような機関を訪ね、最近のトレンドはどうなっているのか、軌道修正の必要はないか、そして新たなネットワークが作れないかなどを尋ねることをお勧めします。

人口減少時代の経営は本当に厳しく難しい。起業当初の事業を見直さなければならぬケースもたくさん出てきます。専門家に相談をしながら事業を続けてください。



### 【リンク】

ちなみに僕が起業の際に経験し学んだ数々の失敗談は下記ブログにまとめてあります。興味があればご一読ください。  
(情報が古くて申し訳ないのですが)

<https://akitakomachi.net/kigyo/>

# あきた起業家交流フェスタ2019

開催内容 秋田県内の起業意識の醸成および起業家の発掘、起業家への支援を目的とした交流イベントを開催

## 若手起業家が集結! 起業家展示会

「起業家展示会」は、秋田県内における創業・起業家の活動促進、ビジネスチャンスの拡大や人脈づくりの支援などを目的としており、2016年および2017年に実施した起業家交流展以来、3度目の開催となった。県内に拠点を構える起業して10年以内の方を対象として出展を募集したところ、50者程度の参加計画に対し、予想を上回る72者からの参加申込みがあった。当日は起業家による展示のほか、試食会やワークショップ、ミニセミナーなども行われ、一般の方を含めた来場者数は約300名にも上った。会場には食品や雑貨、美容・健康、デザインなど様々な業種のブースが一堂に会し、来場者への自社商品のPRはもちろんのこと、同じ悩みを抱える起業家同士の交流の場として大いに賑わいを見せた。

### 参加者の声

#### 2018年OPEN オーガニック専門店 **AKITA ORGANICS**

佐藤 麻実さん

食品添加物の使用が当たり前に入っている時代だからこそ、食の安全が大切だと思い、秋田市戸野にオーガニック専門店をオープンしました。特別自然栽培の野菜や調味料、パン、チョコレートなど、商品は全て自分で選び、“気軽に日常的に利用できるお店”を目指しています。オープンしてちょうど1年。今後は宣伝にも力を入れ、新規顧客獲得に力を入れていきたいと思います。



#### 2018年OPEN キャンドル&ハーバリウム教室 **Noah Candle**

森澤 愛理さん

キャンドル作家に憧れて、自分でも作ってみたいと思った時、秋田にはそういう場がないことに気がつきました。秋田でもキャンドル作りが出来たら良いな、その想いで講師の資格を取り、秋田市飯島で教室を主宰しています。SNSを見て県外からも来て下さるお客様もあり、今後は新しいコースを作るなどキャンドルで、皆様と『楽しい』を増やしていきたいと思います。



11月6日(水)、秋田ビューホテルを会場に  
「あきた起業家交流フェスタ2019」を開催した。  
「起業家展示会」や「あきたビジネスプランコンテスト」  
のほか、「先輩起業家表彰(詳細は10ページ)」、  
「起業家交流会」の4部構成で行われた。



## ビジネスチャンスを掴め! あきたビジネスプランコンテスト

「あきたビジネスプランコンテスト」は、秋田県内における創業・起業意識の醸成と独創性のある事業計画を持つ起業家の発掘を目的とし、毎年行われているものであり、今年度は27名もの応募者の中から最終審査に残った8名が自らのビジネスプランを発表した。10分間という限られた持ち時間の中で、審査員や観客に対して想いを伝えるため、ファイナリストたちはプレゼン方法に工夫を凝らすなど、熱弁を繰り広げた。厳正な審査の結果、岡住修兵さんのプラン「秋田に新しい酒蔵を」が見事グランプリに輝き、賞金として50万円が贈られた。



### 秋田に新しい酒蔵を ～3年目にどぶろく蔵の創設、 5年目に清酒免許取得に向けた、 初年度委託醸造での日本酒造り～

岡住 修兵 さん

ほぼ不可能と言われる日本酒の新規参入を、計画的に実績を積み上げることで可能にし、日本酒の更なる市場開拓と共に若き担い手のモデルケースになることを提案。県内の酒蔵で積んだ実務経験のみならず、今年は自ら米作りに参加し、醸造委託した日本酒をSNSを通して販売する(予約受付中)。来年には東京でどぶろく蔵の創設を予定するなど、美酒王国・秋田を活かした一貫性のある事業計画が高く評価された。岡住さんはビジネスコンテストのエントリーを決めた直後からSNSで優勝を公言。「家族の協力を得ながら目標を糧に自分を追い込んできました。これから起業を目指す人は情熱を強く持って」と笑顔を見せた。



ファイナリスト一覧(発表順)

**ヤングビジネス賞** 地域通貨「秋田コイン」を用いた  
菅原 魁人 (大学生) 社会問題解決型プラットホーム

**敢闘賞** “星のおねえさん”として秋田の夜に  
八巻 枝美 新たな観光資源を生み出したい!

**審査員特別賞 グッドプラン賞** 角館におけるトレーラーハウスを活用した  
泉谷 久美子 ゲストハウスの起業について  
～点から線へ、線から円へ～

**準グランプリ** AKITA LOVE SHIITAKE!  
岡本 大介 規格外のしいたけを活用し、秋田の食文化に  
オリーブオイルを組み合わせた商品の開発

**グランプリ** 秋田に新しい酒蔵を～3年目にどぶろく蔵の  
岡住 修兵 創設、5年目に清酒免許取得に向けた、  
初年度委託醸造での日本酒造り～

**グッドプラン賞** NPO法人あきたFABの創業  
鈴木 圭一 ～次世代人材育成～

**敢闘賞** 予定管理サポートアプリ・目標公言SNS  
岩間 彩夏 (大学生) アプリ～最高の目標達成への道のり～

**敢闘賞** ゼロ円! アキマネ  
青柳 友哉 (空き家のマネージャー)



思い思いの方法でプレゼンを繰り広げたファイナリストたち

# 先輩起業家を表彰しました

秋田県は、今年が初めての開催となる「先輩起業家表彰」を、11月6日に行われた「あきた起業家交流フェスタ2019」に併せて実施した。この表彰は、県内で起業を目指す方々の創業意識を高めることを目的とし創設されたもので、秋田を代表する起業家として、秋田ノーザンハピネット株式会社 代表取締役社長 水野 勇気氏を表彰した。

水野氏は、当時26歳の若さで秋田県初のプロバスケットボールチーム・秋田ノーザンハピネットの立ち上げを行い、試合の運営にとどまらず、地域貢献活動として学校訪問や地域イベントへの参加など、積極的に活動する姿勢が先輩起業家として高く評価された。



## 先輩起業家 受賞スピーチ

秋田ノーザンハピネット株式会社  
代表取締役社長 **水野 勇気 氏**

秋田ノーザンハピネットは今までこそ沢山の方々に知っていただいておりますが、設立活動当初は「秋田でプロバスケットボールチームなんて作れるわけがない」と言われたこともあります。それでも一つ一つの課題を乗り越え、当社は今季で会社設立12年目、チーム創設10年目を迎えました。東北で唯一のB1クラブとして優勝を目指すことはもちろん、企業としてもより一層成長し、これからも、「バスケで秋田を元気に」をモットーに皆さんに感動をお届けしていきます。引き続き、秋田ノーザンハピネットへの応援をよろしくお願ひいたします。

お問い合わせ先／秋田県産業労働部 商業貿易課 TEL.018-860-2244

働きやすい環境だから仕事も楽しくなる

## 創業支援室〈秋田県庁第二庁舎3階〉の入居者を募集しています!

創業支援室  
**Aタイプ**



空室  
**2部屋**

創業支援室  
**Bタイプ**



空室  
**3部屋**

**Aタイプ**〈8部屋〉

25m<sup>2</sup>以下

月額使用料22,000円

**Bタイプ**〈3部屋〉

48m<sup>2</sup>以下

月額使用料52,380円

**入居期間: 1年間**

ただし、継続審査により  
最大3年まで入居可能です。

お申込み・お問い合わせ先／総合企画部 総合相談課 TEL.018-860-5610 FAX.018-863-2390

Aターン求人をしている県内中小企業の皆様へ!

# 移住支援金対象法人 募集中!

東京圏※からのAターン就業者に最大200万円の移住支援金を支給します

※埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県。

## 移住支援金の概要

東京圏※からの移住の促進と県内中小企業の人材確保を図るため、Aターン希望者と県内企業とのマッチングを強化し、就業した移住者に対し市町村と共同で移住支援金を支給するものです。市町村から支給される『一般分』と、一般分への加算金として県から支給される『県単支援分』があります。

### ① 一般分

東京都23区在住者又は東京圏※から23区内に通勤する方が、移住支援対象法人の求人に就職した場合、市町村から「移住支援金」を支給します。

家族で移住 100万円／世帯

単身で移住 60万円／世帯

### ② 県単支援分

一般分の支援金対象者のうち、先進技術の活用を担う人材として、また人材不足が特に深刻な分野において就職する技術職・専門職である場合、県からさらに支援金を支給します。

家族で移住 100万円／世帯

単身で移住 60万円／世帯

県単支援分加算の  
対象となる移住就業者

①先進技術の活用を担う技術職

②人材不足が特に深刻な分野の技術職・専門職

## 移住支援金対象法人とは

以下の要件を満たす法人であり、かつ就業先法人として県に登録されていることが条件となります。

- ◆資本金10億円以上の法人でないこと
- ◆みなし大企業でないこと
- ◆本店所在地が東京圏※以外であること
- ◆秋田県が定める次の産業に属する法人であること
  - ①地域経済を牽引する産業
  - ②地域の安全・安心・生活を支える産業
  - ③【全分野対象】産業人材の確保のため、働きやすい職場づくりに取り組む法人

※その他の要件もあります。

※詳細については秋田県公式サイト「美の国あきた」移住・定住促進課ページをご覧ください。

登録された法人の求人は「Yahoo!しごと検索」等の転職サイトに掲載され、広く求人を告知できます。

まずはご登録から!! 移住支援金 秋田県 で検索!!



# ファンド事業による 助成対象事業を募集します!

あきた企業活性化センターでは、県内企業の付加価値の向上を通じて  
県経済の活性化や雇用の場の創出を図るため、県内における創業や、

県内企業の新商品・新サービスの開発、販路拡大等の取組を  
支援することを目的とし、「あきた中小企業みらい応援ファンド事業」と  
「あきた農商工応援ファンド事業」の助成対象事業を募集します。

## ①あきた中小企業みらい応援ファンド事業

高度技術または新製品の開発等のために、県内の大学や公設試験研究機関等と共同で行う研究開発を支援します。

事業区分	助成対象事業	助成率	助成限度額
高度技術産業集積地域型 (秋田市)	高度技術産業集積地域(秋田市)に主たる事務所・事業所を有する中小企業者、NPO法人、有限責任事業組合、中小企業者、NPO法人、有限責任事業組合、中小企業者として創業する方で、高度技術又は新製品の開発や高度技術を利用した製品の高付加価値化、生産工程の合理化、地域資源の開発等のために県内大学、工業高等専門学校又は公設試験研究機関と連携して研究開発を行う事業	3/4 以内	300万円
一般地域型 (秋田市以外)	高度技術産業集積地域(秋田市)以外に主たる事務所・事業所を有する中小企業者、NPO法人、有限責任事業組合、中小企業者、NPO法人、有限責任事業組合、中小企業者として創業する方で、高度技術又は新製品の開発や高度技術を利用した製品の高付加価値化、生産工程の合理化、地域資源の開発等のために県内大学、工業高等専門学校又は公設試験研究機関と連携して研究開発を行う事業	2/3 以内	250万円

- 募集期間／令和元年11月20日(水)～12月27日(金)
- 事業期間／助成金交付決定の日から1年以内。ただし同じテーマで2回目の事業を実施する場合は、改めて申請を行い、審査を受ける必要があります。

## ②あきた農商工応援ファンド支援事業

農林漁業者と中小企業者等が連携して取り組む県農林水産物を活用した新商品や新サービスの開発、およびその販路開拓などの取り組みを支援します。

事業区分	助成対象事業	助成率	助成限度額
農商工連携支援事業	県内の中小企業者またはNPO法人等と農林漁業者の連携体が行う次の事業 ①新たに取り組む商品の開発や改良 ②開発や改良した商品の販路開拓(自己負担または他の制度を活用し、開発した商品を含む) ③県産農林水畜産物の高品質化やブランド化、安定供給のための取組 ④商品開発と併せた衛生管理の改善、農業生産工程管理、産業財産権等の取得 ⑤県産農林水畜産物を活用したメニュー提供等の新たなサービス事業の展開 ⑥①～⑤に付随する告知媒体等を活用したPRや周知活動 ⑦①～⑤に付随するマーケティング等の必要な調査	1/2(開発商品の販路が確定している場合や、県の公設試験が開発した品種、技術を活用する等の場合は2/3)以内	単年度または1年目は80万円、2年目は1年目の1/2
農商工連携応援団体 支援事業	県内の中小企業者またはNPO法人等と農林漁業者の連携体が取り組む活動を支援する団体による、上の欄①～⑦の事業	2/3(上の欄括弧内の場合は10/10)以内	単年度または1年目は80万円、2年目は1年目の1/2

- 募集期間／令和元年11月29日(金)～令和2年1月27日(月)(予定)(期間は予定です。センターのホームページでご確認ください。)
- 事業期間／最初の助成金交付決定日から1年または2年以内。事業の2年目にあたっては、改めて交付申請を行う必要があります。

### 共通応募方法

募集要項・申請書等は当センターウェブサイトから電子データを入手し、ご確認ください。(http://bic-akita.or.jp/) 応募要件に合致しているかどうか、事前に内容を確認しますので、ウェブサイト上の募集要項・募集にあたっての注意事項をご覧いただき、応募締切日の概ね2週間前までに事前相談申込書をご提出のうえ、必ず事前相談を受けてください。

お問合せ先/  
申請書提出先

公益財団法人あきた企業活性化センター 経営支援部 設備・研究推進課  
秋田市山王三丁目1-1 秋田県庁第二庁舎2階 TEL.018-860-5702 FAX.018-860-5612